

浜松医大の今

浜松医科大学 学長

今野 弘之

Hiroyuki Konno, M.D., Ph.D.
President
Hamamatsu University School of Medicine



歴史ある「技術開発ニュース」の巻頭言をご指名頂き、大変光栄に思っています。まずは、御社から多方面に渡ってご理解とご支援を賜っていることに、浜松医大を代表して御礼申し上げます。

良い機会を与えて頂きましたので、本学の現況をご紹介させて頂きたいと思えます。浜松医科大学は開学46年になります。卒業生は昨年度までに医学科 4,049名、看護学科 1,435名に達し、地域医療のみならず、全国の医療の現場や研究分野、行政関係など本学卒業生は多方面で活躍しており、他大学の教授、日本医師会、中央官庁等で日本の医療の中核を担っている卒業生も少なくありません。

私は2016年4月に7代目の学長に就任致しました。少しかたい話になって恐縮ですが、就任時より、運営の指針を本学開学時に策定された「建学の理念」に置いてきました。本学の建学の理念は、「優れた臨床医の育成、独創的研究成果と新たな医療技術の開発、患者第一主義の医療の実践」を謳っており、最後に「人類の健康と福祉に貢献する」と結んでいます。46年前に「新たな医療技術」にまで言及していることは本学の今日の姿を考えると、当時の学長らの先見性に敬意と感謝の念を抱きます。

国立大学の法人化から16年経ちました。この間私を含め、3代の学長が中心となって教職員と共に多くの改革を進めてきました。大学の運営全般に渡って学長のリーダーシップが強化されると共に、責任も飛躍的に増大しました。以前の国立大学と比べると、経営に対する意識が大きく変化しました。一例を挙げますと、経営努力に対するインセンティブを付与することを目的として、目的積立金の制度が設計され、計画的な大学の施設の新築や改築、インフラの整備などが実施できるようになりました。国からの長期借入金と共に、一定程度は自己資金が必要です。主として病院収益を目的積立金とし、この費用にあてます。お陰様で、順調に資金が確保され、改築、新築を切れ目なく行っています。工事続きのため、患者さんや教職員、学生にはご迷惑をおかけしていますが、本学のさらなる発展のためにご理解を頂いています。

附属病院は安全で高度な医療を行うことを第一のミッションとして、医師、看護師だけではなく全ての関係者が、文字通り懸命に職務に励んでいます。本当に頭が下がります。附属病院の経営状況は極めて良好で、高度で安全な医療を提供するという使命を十全に果たしながら、病床あたりの手術件数など多くの指標が国立大学の中でもトップランクに位置しています。稼働額も右肩上がり、令和3年度には最新の手術室や放射線治療室、内視鏡室、新生児治療室などを備えた機能強化棟が竣工します。

さて、教育についても少し述べさせていただきます。本学は「記憶力」から「論理的思考力、判断力、表現力」へとこの国の方向性を先取り、入試方法も改革しています。「医療人になりたい」というモチベーションの高い学生に入学してもらうことが第一ですが、自ら課題を見つけ、解決策を見出すという能力を重視しています。医療人になってから、現場で最も必要とされる能力といえます。この自ら課題を抽出し、解決する能力は入学後の指針でもあり、優れた医療人として必要不可欠な、倫理観、コミュニケーション能力などの資質の涵養にも力を入れています。

社会貢献の柱である、地域医療では西部地区のみならず、静岡県全体の医療の主導的な役割を担っています。既に静岡県の勤務医の約3割を本学の関係者が占めており、600床以上の大病院3施設を含め、30人近い病院長を輩出しています。そのほかにも、県医師会理事や市町の医師会長、県や市町の医療行政の幹部として本学関係者が活躍しています。直近では医学部卒業生の64%、70名以上が県内に残っており、全国的にも地元定着率が高い大学です。

現在、マスコミでも盛んに取り上げられていますが、静岡大学との大学再編を伴う1法人2大学化を進めています。浜松地区の大学は医、工、情報が一緒になった新たな大学となり、世界的な競争に立ち向かえるアカデミアとなることを期待されます。

中部電力の皆様におかれましては、倍旧のご理解とご支援を賜れば幸いです。